

じゅんごの新聞

JADDO 第5号

1994年 8月 5日 新

JADDO

アジアのこども達を援助する会

事務局：〒895 鹿児島県 川内市 神田町 11-20

若松記念病院となり 寿泉堂薬局

TEL. 0996-20-1402

JADDO総会 開催 さる

1994年 7月 30日

7月30日19時から 川内市民会館、第2会議室にてJADDO総会が開催されました。7月30日と31日に鹿児島で開催された第9回日本国際保健医療学会に出席のため帰国した帖佐と、同じく学会に招待され講演するために来日したサイルディー教授の日程にあわせて急遽取り決められた開催日にもかかわらず60数名の出席をいただきました。

宮脇事務局長が議長を務め以下のスケジュールで議事が進行いたしました。

- 一、開会のあいさつ
- 一、会長あいさつ
- 一、来賓あいさつ
- 一、議事
 - 一) 平成5年度活動経過報告 会長(帖佐)
 - 二) 平成5年度会計報告
 - 一般会計 安部氏
 - 会計監査報告 監事(若松)
 - 三) 平成6年度事業計画(案) 会長(帖佐)
 - 四) 平成6年度予算(案) 安部氏
- 一、閉会のあいさつ

川内郵便局貯金課 課長 森武靖文氏に来賓としておいでいただき、国際ボランティア貯金のお話をうかがいました。

日本全体で国際ボランティア貯金の加入者は1500万人のうち鹿児島は26万7千人であること。例えば10万円貯金すれば1320円の利子がつきその中から221円が国際ボランティアへの寄付として使われる。今年度は261のボランティア組織に配分され鹿児島ではJADDOを含めて2件であったこと。等をお話くださいました。

ボランティア貯金からの配分を受けたことで直接知らない人たちの好意を受け取ったことになるのだと改めて感謝いたしました。

総会に続き、講演会を行ないました。

題：タイにおける日本人女性の性行動

講師：サイルディー フォラキットポカトーン女史
(タイ、マヒドール大学 社会学教授)

サイルディー教授は国際保健学会に招待されており31日の発表を前にした日でしたが、JADDOのために川内までおいでいただきました。教授はタイでは女性の社会的地位に関する研究等の他に、月～金の毎夕方、テレビに出演して子供の健康を中心にした保健衛生の話をしています。

最近では売春婦とビーチボーイ(海岸で観光客にスポーツの指導をしたり、体に日焼けオイルを塗る、足の爪にマニキュアを塗る等のサービスをしてお金を稼ぐ若い男性達)にインタビューを行いどうすればエイズの蔓延を防げるかを研究しています。この研究は日本のエイズ予防財団の研究の一つとして行なわれており今のところマスコミへの発表は許可されていません。

題も内容もかなりセンセーショナルで驚かれたのではないのでしょうか。また、急に帖佐会長が通訳を担当することになりへたな、時には誤った訳になりせっかくの講演を聞きづらいものにしてしまい誠に申し訳ありませんでした。文書による発表は許可されていませんので論文の全訳は載せられませんが、以下に要旨を述べます。

サイルディー教授の講演から

調査を行なったプーケット島はタイの南の島である。ここ数年、日本人特に20歳代の若い女性が多く訪れる。彼女等はタイにエイズが広まりつつあることを知っていてもプーケット島がタイであることを知らずに来ていることが多い。

若い女性たちは添乗員無しの女性だけの少人数グループでプーケット島にやってくる人が多い。他の国のグループはほとんどが男女混合のグループである。女性だけでいるのでビーチボーイたちが誘いやすい。少しやさしくするとすぐに信頼してくるので以前からの友人のような雰囲気をつくれる。ほとんどが会ったその日あるいは翌日にはベッドインする。コンドームは最初の1回めは使用すが後は使用しないことがほとんど。日本女性はビーチボーイ達の言うままに食事代など払い服やバイクまで買い与える。

日本女性は無防備である。例えば肌の露出が多い。ジェットスキーやパラセーリング等のマリンスポーツを教わる時も他の国の女性達のように水着の上にTシャツを着ることも無い。夜遅くまで砂浜にいたことが如何に危険かわかっていない。夜中に数人から強姦された女性がいるが、日本人はなかなか警察に届けられないので狙われる。

タイのビーチボーイ達は遊びとお金のために日本女性に近付くが日本女性達は本気で愛されていると思込みすっかり恋人の気分である。2~3日の滞在で帰国するが再度プーケット島を訪れる日本女性が多い。彼女達は前に親しくなったビーチボーイだけに会いにやってくる。中には結婚にこぎ付けたカップルがいるがほんの一握りである。ビーチボーイ達が観光にやってくる女性たちに次々と声をかけていることをわかってほしい。

日本女性は他の国に比べ年令の割にお金を持っている。しかし、プーケット島に来る女性たちは特に高給取りというわけでは無い。つまり、会社では上司からの指示で動くだけで自分で考えたり自分で指示をすることはやったことが無い。自分で判断することをこれまでにしたことも、するように要求されたこともない。だから自分で状況を判断してNOと言うことができない。

又日本で男性にやさしくされたことがないので、体にオイルを塗ってもらったり足の爪にマニキュアを塗ってもらおうと、すぐに恋してしまう。他人から見れば若いタイ男性をお金で買っているようにしか見えないが本人たちにはその自覚はない。あくまでも恋愛をしているつもりである。日本男性の世界に名高い買春ツアーとは意識が違う。

日本女性たちは破廉恥なのではなく一人の大人として精神的に自立していないのではないか。

こういうことでエイズが広まるのは残念だ。日本女性は自分の身を守ることをおぼえてほしい。

以上

会員の皆様、考えてみてくださいね。



大学の公式な
礼服を着た
サイルディー教授

国際保健医療学会で帖佐徹はシンポジウム「途上国における感染症サーベイランス」にシンポジストとして参加しラオスのポリオ根絶の現状を話した。

国際保健医療学会で帖佐理子は「ラオス国における保健情報伝達メディアの効率に関する調査」を発表しました。

ラオスではテレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアの発達が不十分で電信電話、道路も郵便制度も整備されていない。この国で今年初めに行なわれた全国一斉予防接種の日をどのようにして知った、予防接種に関する知識はどのようにして得たか等を調べて、この国では如何なる情報伝達方法が有効かを考察しました。

結果(一部) ;

予防接種の効用

@予防接種した種類の病気から免れる	6.07%
こどもが病気にかかりにくくなる	13.92%
こどもが健康になる	53.56%
その他	2.85%
返答なし	23.57%

予防接種に行った理由

村長に行くように言われたから	55.00%
予防接種の重要性をわかっていたから	36.42%
隣人に説得されたから	8.57%

全国一斉予防接種の日をどのようにして知ったか

村長から直接聞いた	100.00%
-----------	---------

結論; マスメディアの未発達なラオスでは身近な人からの口コミが最も効果的であった。今年の全国一斉予防接種の日のキャンペーンはテレビ、ラジオを通じて連日報道されたのだが効果は期待以下であった。村長の訪問と説得が効果的であったのは共産主義体制の当国で行政の関与が重要な意味を持つ反映と思われる。